

祝！300万人突破

平成2年3月に開館した市立博物館の入館者数が7月18日に300万人を突破しました。当日は記念セレモニーが実施され、「ときも」も祝福に駆けつけました。入館300万人目の中山弘子さん(札幌市西区)には、ときもグッズや入館証明書などが贈呈されました。「びっくりしました。前に来た時は本丸御殿も博物館も休館でしたが、記念の時にまた来られてうれしいです」と中山さん。



お城が好きだという中山さん(中央)

日本文化を伝える国際交流



書道パフォーマンスの様子
会場のセーラム市民からは大きな拍手が送られました。

6月29日・30日にアメリカのセーラム市で開催された「ワールドビートフェスティバル」に書道家の矢部澄翔さん(今福)が出演しました。この催しは、多文化共生への理解を深めることを目的に毎年行われ、16回目の今年のテーマは「日本文化」。会場で行われた書道パフォーマンス(上写真)では、姉妹都市の提携をしているセーラム市と川越市の今までとこれからを表わす「繋」という漢字が書き入れられ、作品が完成しました。



ふおとニュース



熱さに耐えて暑さに勝つ



素焼きの皿を頭に乘せて、もぐさに火を付けると、辺りは煙で真っ白になります。

三光町にある妙昌寺では、土用の丑の日に「ほうろく灸」が伝統的に行われています。暑気あたりや頭痛に効能があるといわれ、以前は多くの農家の方が夏場の農作業で暑さ負けしないようにと訪れていたそうです。



20年ほど前から訪れているという椎橋よし江さん(吉見町)は「頭がすっきりした気がします。暑い夏を乗り切って1年間健康で過ごしたいです」。

夏のスケート教室



川越市スケート連盟の方が講師となり、靴の履き方や氷上の歩き方など基礎の指導が行われました。

7月6日、川越スケートセンター(田町)で「スケート教室」が開催されました。教室は7月中に3回行われ、初日のこの日はおよそ100人が参加。小学1年生の中村紅葉さん(下写真・上戸)に今回の目標を聞くと「あと2回でスイスイ滑れるようになりたいな」と笑顔で答えてくれました。

外の蒸し暑さが嘘のようにひんやりとした会場内に、参加者の笑顔があふれていました。

